

週刊 座、グレート・リーダーズ通信

『インド私録-思い切り取り組んだこの 50 年-』 No.19

今週のキーワード！ 情報源
謎のCIA職員は同好の士？

『インド私録』の中でもミステリアスな色合いで印象的なのが、「S 米領事とセングプタ記者のこと」の一節です。武藤氏はカルカッタ(現コルカタ)着任早々、出会ったばかりの米国領事 S 氏から、カルカッタでの情報ソース・リストを渡されました。武藤氏によれば、情報ソースというものは自分で発掘するものであり、他人に渡すことはまずないというもの。それを S 領事がどうして武藤氏に渡そうと思ったのか、後に武藤氏は S 領事が中央情報局(CIA)の職員であったことを知るわけですが、それだけにそのリストの譲渡は「謎」として残ります。米国として日本にはここから情報を得てほしいという考えがあったのか、ひょっとしたら

その手書きのリストには、なにかしらの暗号があったのではないかなどというスパイ映画じみた妄想も湧いてくるのですが、S 領事も米務省きってのインド通ということで、武藤氏に同じ匂いを嗅ぎ取ったというのが真相のようです。

ところで、こうした S 領事の情報源を使って得た情報も、武藤氏はもちろん「外交活動の一環で得た情報はきちんと報告する責任がある」ため、外務省に報告しています。

インド駐在の思い出の品

マリオ画伯の絵、バクシー先生のメモ

第 19 回放送では、武藤氏にはインドでの思い出の詰まった品をいくつかご披露いただきました。

まず、漫画家マリオ・ミランダ氏がメッセージを仕込んだ絵が左下の

写真です。マリオ・ミランダ氏は 84 歳。2005 年に『Mario de Miranda』と題する画集・自叙伝を出しています(<http://mariodemiranda.com/>)。写真を見るとクラーク・ゲブルのような風貌に、なるほど生粋のインド人ではないと思わされます。武藤氏によれば、現在は出身地のゴアで静養中とのこと。

次に、英領インド時代の 1 ルピー銀貨とバクシー先生が武藤氏のために作った収集帖です。英領インド時代のコインは 1835 年から発行され、収集帖も 1835 年からスタートしています。武藤氏は 1 ルピー銀貨だけを収集することにしており、その成果がバクシー先生の手で律儀に記録されています。

なお、オークションサイトの eBay では 1862 年製 1 ルピー銀貨は 25 ドル程度で出品されています。



マリオ・ミランダ氏が武藤氏に贈ったボンベイの繁華街チャーチゲートの映画館の絵。「夕刊だよ。武藤総領事一家がボンベイを去るよ〜」。夕暮れに響く新聞売りの少年の声。手前にはその新聞を読む人。(武藤氏所蔵)



英領時代の 1 ルピー銀貨。左手前があわや大金持ちかと思われた 1862 年製。右は 1892 年製。1835 年から 75 種類铸造されたとされるうち 52 個を収集。(武藤氏所蔵)

第 21 回放送は 10 月 19 日。

